

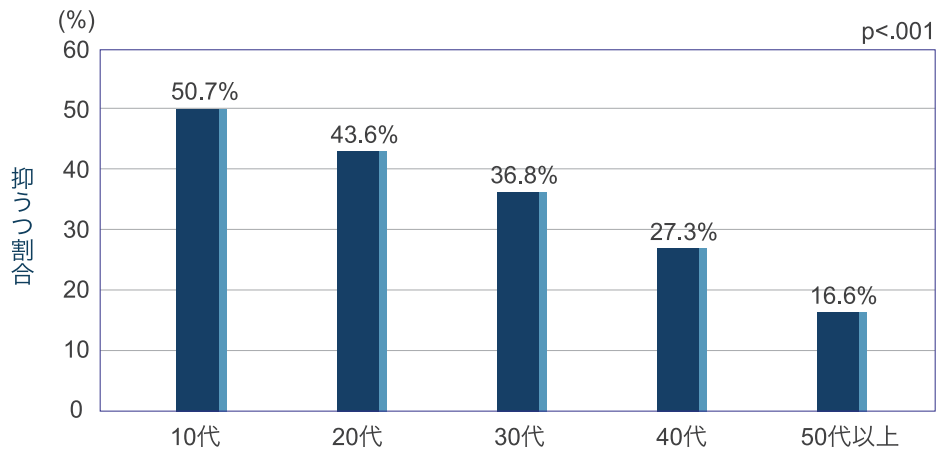
● 心の健康状態—抑うつ・自尊感情、自殺を考えたこと

心の健康状態を測定するために、CES-D抑うつ尺度およびRosenberg自尊感情尺度を用いました。その結果、年齢が若いほど抑うつ割合は高く、自尊感情は低いことが示されました⁹¹⁰。

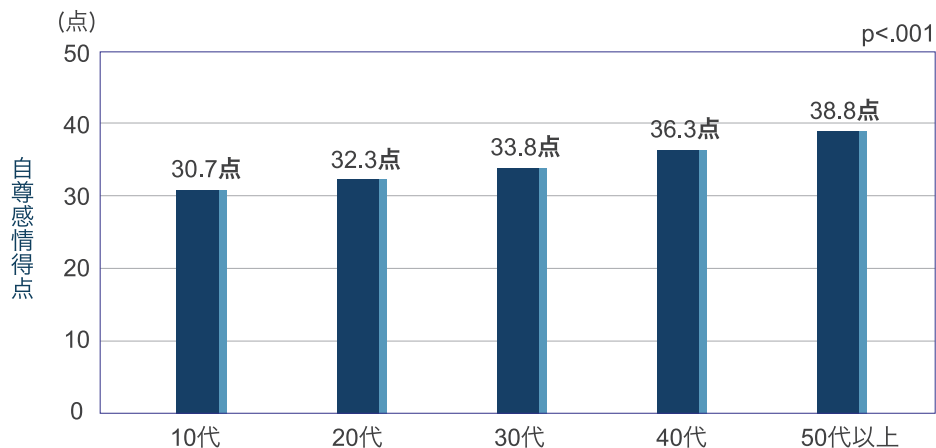
わが国の自殺既遂者は年間3万人を超えますが、自殺未遂の実態について国レベルで詳細に把握できていない状況にあります。また、自殺既遂者の動機や背景要因を記録する際に性的指向の視点は含まれておらず、その関連は何も明らかになっていないのが現状です。ゲイ・バイセクシュアル男性の自殺念慮、自殺未遂割合については1999年実施のインターネット調査（有効回答数1,025人）の結果と比較してみるとその割合に何ら変わりなく、全体の65%はこれまでに自殺を考えたことがあり（自殺念慮）、15%前後は実際に自殺未遂の経験がありました¹¹。

1999年調査の調査データを用いて、自殺未遂に関連する要因を多変量解析で詳細に分析しました。その結果、自殺未遂に有意に関連する要因が明らかとなりました。大卒以上の最終学歴がある者はそれ以外の者より0.54倍自殺未遂に関連があり、精神的ストレスが強いほど2.1倍、「ホモ・おかま」言葉によるいじめ被害経験があると1.6倍、女性と性経験があると1.7倍、6人以上に性的指向をカミングアウトしていれば3.2倍、インターネットを通じた男性との出会い経験は1.6倍、それぞれ自殺未遂に関連があることが示されました¹²。

9 年齢と抑うつの関連

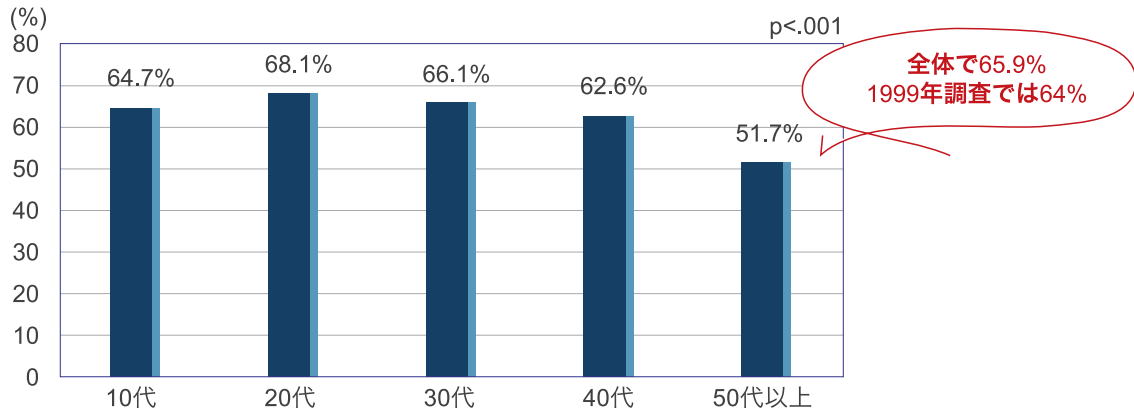


10 年齢と自尊感情

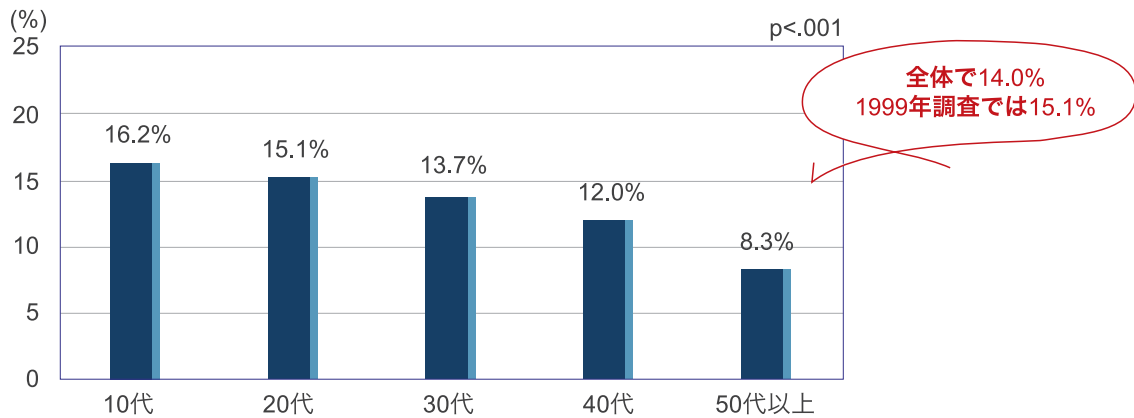


11 これまでに自殺を考えたこと・自殺未遂（有効回答数5,731人）

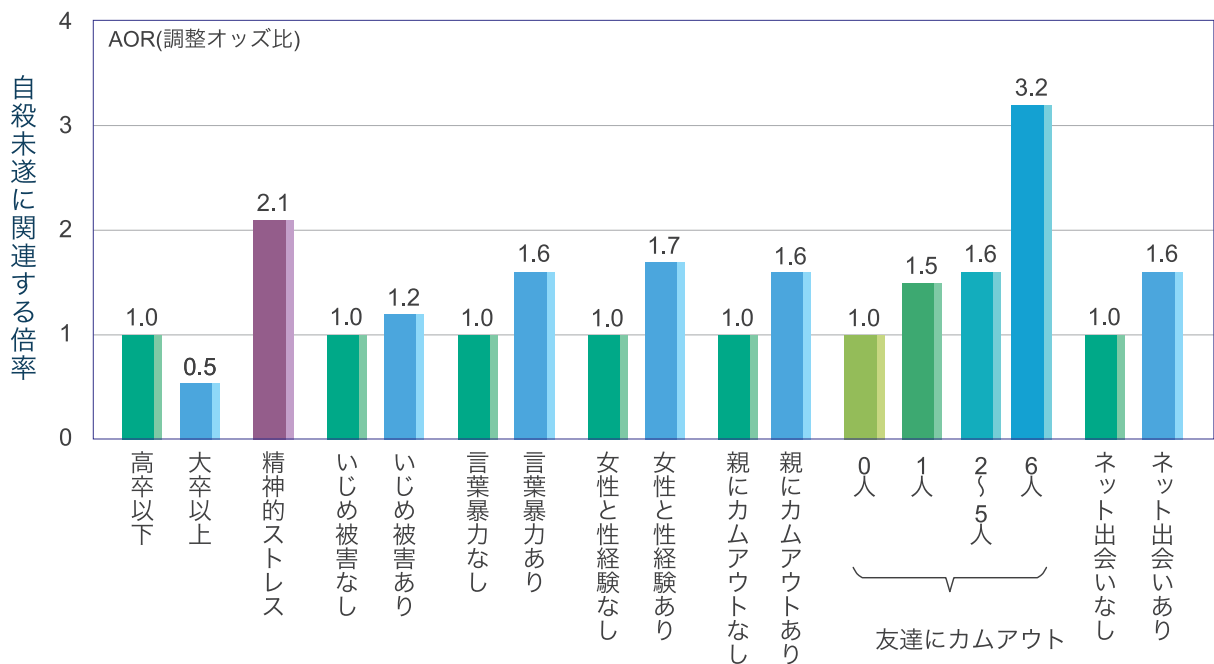
● 自殺を考えたこと



● 自殺未遂



12 自殺未遂に関連する要因（1999年調査 有効回答数1,025人）



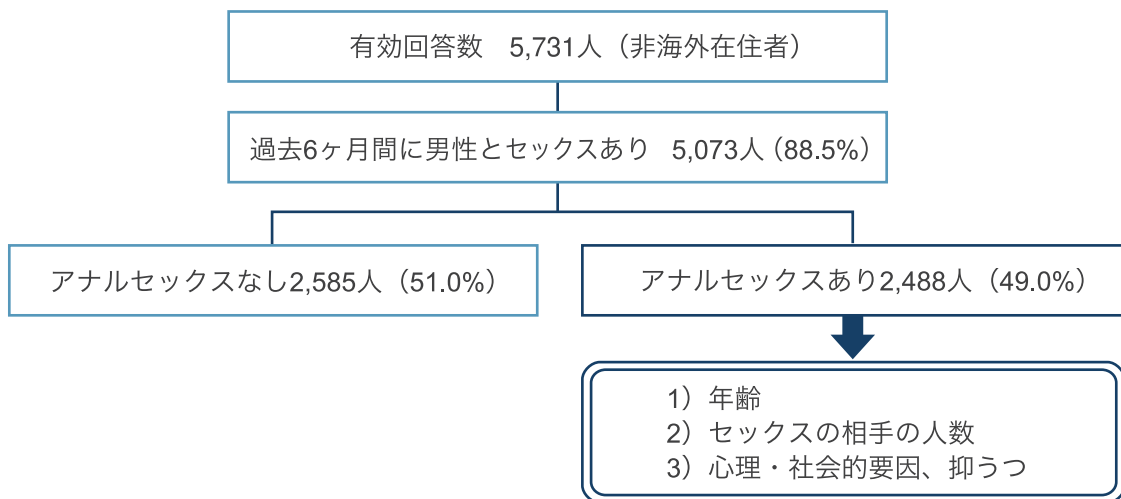
出典
Hidaka Y, Operario D.
Attempted suicide, psychological health and exposure to harassment among Japanese homosexual, bisexual or other men questioning their sexual orientation recruited via the internet.
Journal of Epidemiology and Community Health, 60:962-967, 2006

● 過去6ヶ月間のコンドーム使用状況

回答者のうち、89%が過去6ヶ月間に男性とセックス経験があり、そのうちアナルセックス経験者は49%でした¹³。本調査ではHIV感染の可能性の最も高い行為を「コンドームを使わないアナルセックス」と捉えており、アナルセックス時におけるコンドーム使用状況について分析しました。過去6ヶ月間におけるアナルセックス経験者のコンドーム常用状況を年齢階級別に分析すると、常用（必ず使った）割合は10代と50代以上が低く、年齢が上がるにつれて常用割合も増加傾向にありました。しかし35歳以上になると、常用割合は減少傾向に転じていました。

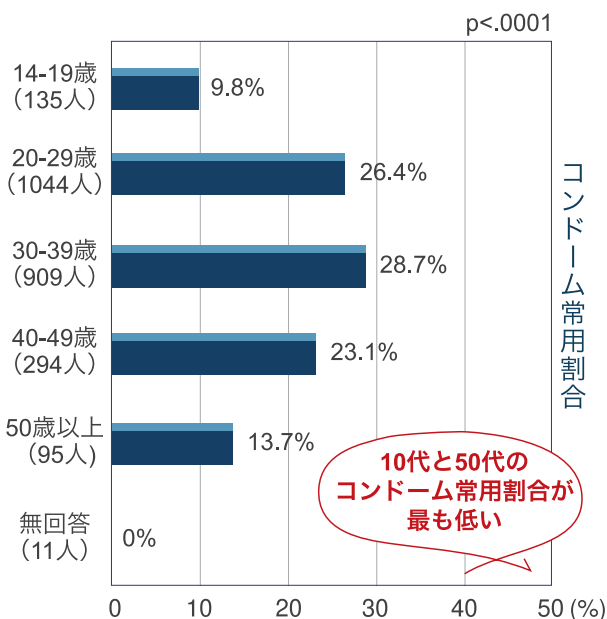
次に過去6ヶ月間のコンドーム使用状況を過去6ヶ月間のセックスした人数別に分析すると、5人までであれば人数が多いほど常用割合は高い傾向にありました¹⁴。

13 過去6ヶ月間アナルセックス経験者のコンドームを毎回使わないことに関連する理由は何か？

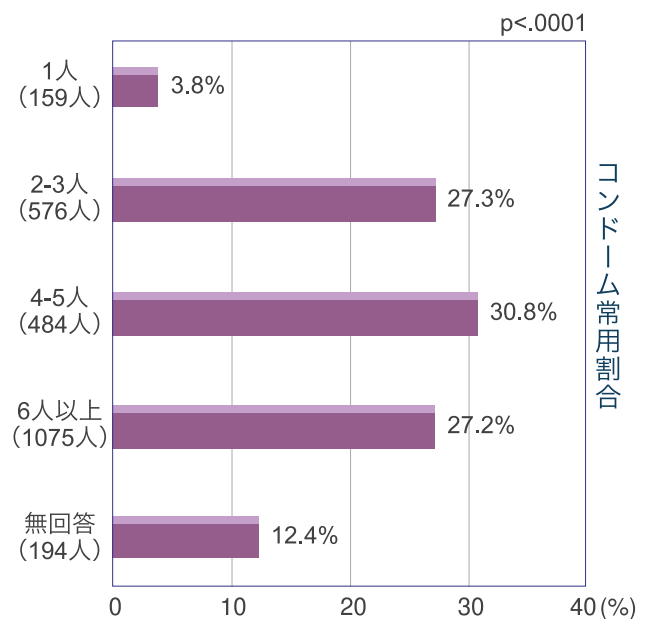


14 コンドーム常用割合

● 年齢階級別



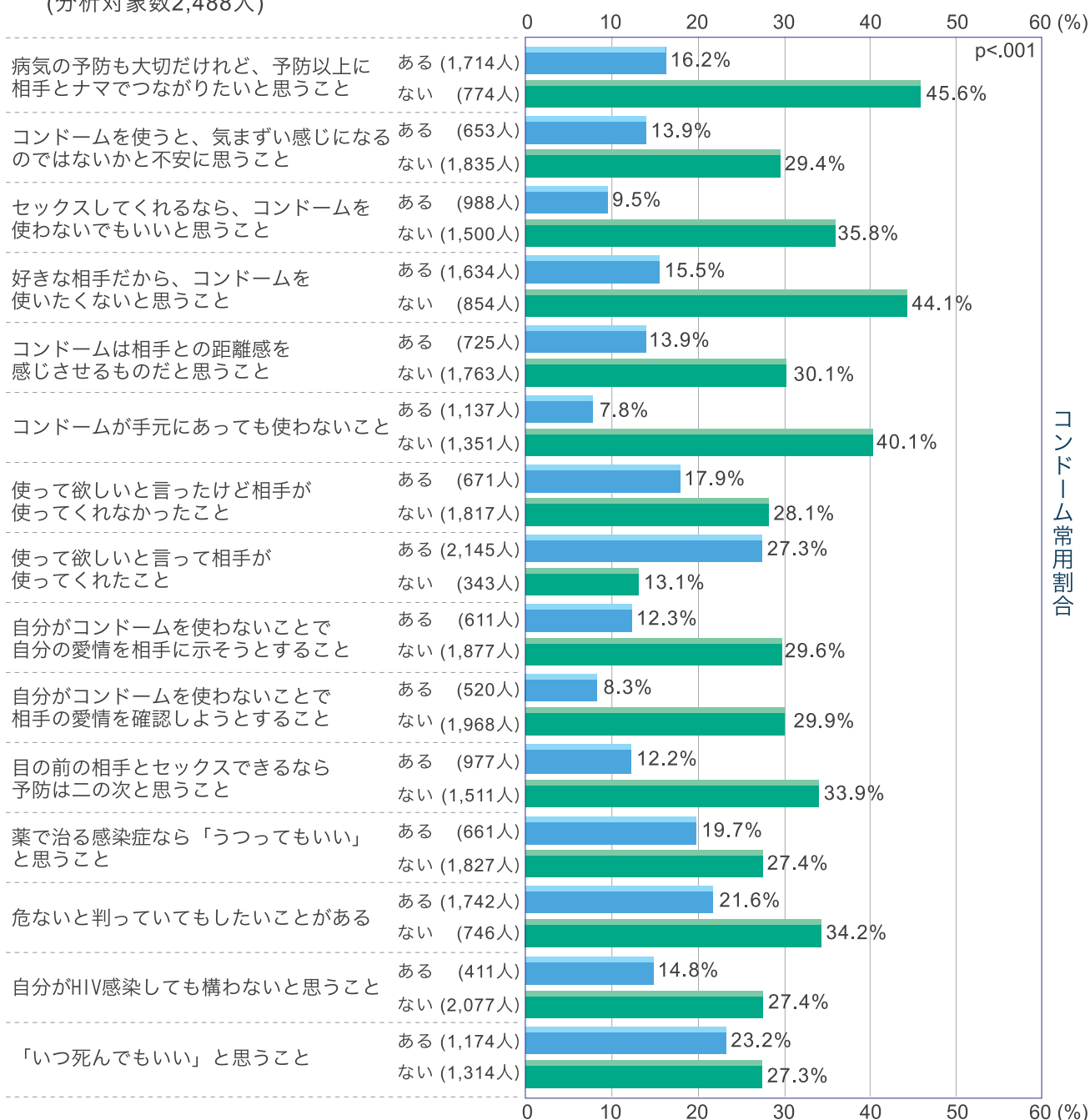
● 過去6ヶ月間にセックスした人数別



● 過去6ヶ月間のコンドーム使用に関連する心理・社会的要因

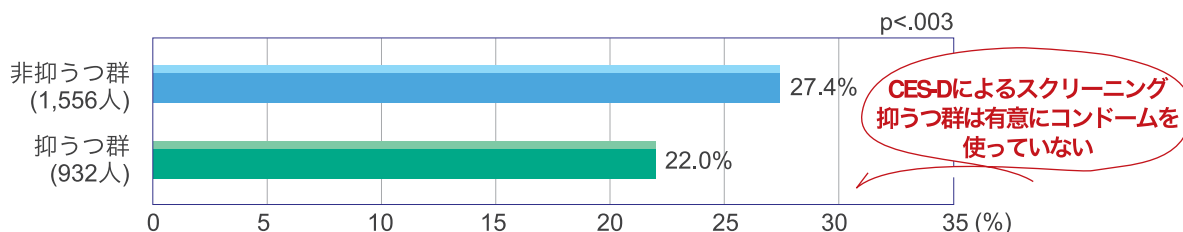
過去6ヶ月間にアナルセックス経験者のコンドーム使用状況に基づいて、コンドーム常用群と非常用群に二群化しました。その上で、セックスに投影される心理とコンドーム常用の関連について分析したところ、セックスに心理的なことを投影している人のコンドーム常用割合は、心理的なことを投影していない人のコンドーム常用割合と比較すると、明らかにその割合が低いことが示されました。コンドームを使用して予防を実践することよりも、セックスの相手との関係性が優先されることや、コンドームがセックスの相手との親密さを阻害することがあると感じられていると言えるでしょう。あるいは、コンドームを使わないことで、相手とつながり合いたい自分の気持ちを積極的に行動で表そうとしているとも考えられます¹⁵。

15 過去6ヶ月間のアナルセックス経験者におけるセックスに投影される心理とコンドーム常用の関連 (分析対象数2,488人)



コンドームを使わない背景にはこのような心理的な理由があり、コンドームを使わないという選択を無意識のうちに自らしている現状があるのかもしれませんが。この結果は2003年の調査結果と全く同様の傾向でした。また、抑うつ群は非抑うつ群と比較するとコンドーム常用割合が低いこともわかりました ⑯。

⑯ 過去6ヶ月間のアナルセックス経験者におけるコンドーム常用と抑うつに関連 (分析対象数2,488人)



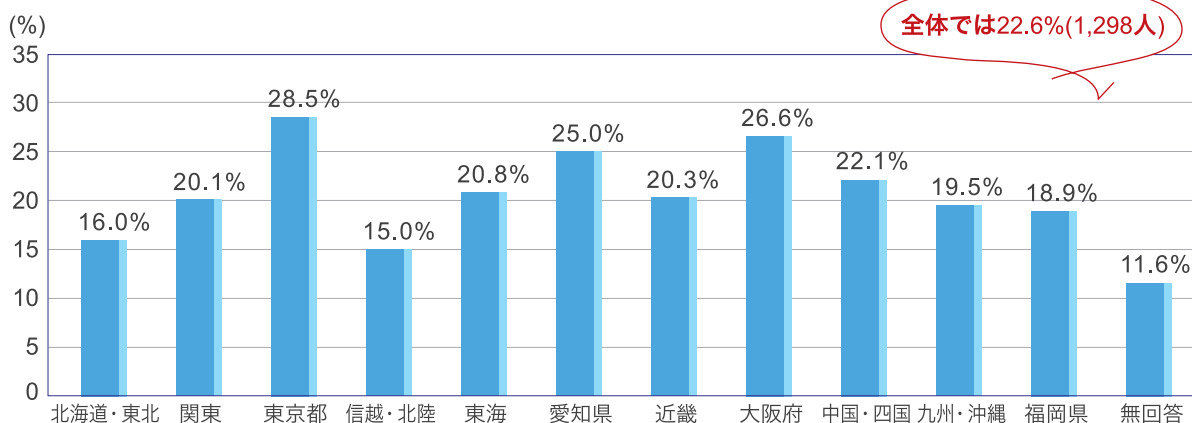
● 過去1年間のHIV抗体検査受検状況およびHIV陽性割合

過去1年間のHIV抗体検査受検割合は22.6%であり、年齢階級別では20代~40代は20%以上、10代と50代以上の受検割合は比較的低率でした。過去6ヶ月間のコンドーム常用割合が低い年齢層は10代と50代以上であると前述しましたが、リスク行動が顕著な年齢層は過去1年間にHIV抗体検査を受検していないことが示唆されています。居住地域別では関東地方、東京都、東海地方、大阪府、近畿地方などの都市部在住者の受検率は20%を超えており他地域よりも高率でした ⑰。若年層や中高年に対してコンドーム使用を促すと共に、HIV抗体検査受検を促進することも必要であると考えられます。また、都市部在住者以外の受検割合の低さを理由に「HIV感染症は都会の問題だ」と捉えるのではなく、都市部以外でゲイ・バイセクシュアル男性は検査を受けづらい環境にあると考える必要があるように思われます。また、検査受検場所は保健所が最も多いことが明らかとなっており、地域の保健師に期待される役割や責任は大きいことがわかります。

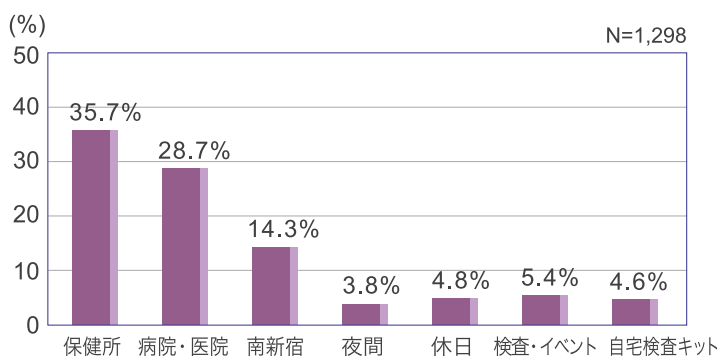
自己申告による性感染症の既往歴は、5,731人のうちHIV感染症5.3%、梅毒10.6%、B型肝炎7.3%でした。

⑰ 過去1年間のHIV抗体検査受検状況 (有効回答数5,731人)

● 居住地域別



● 受検場所割合



● 年齢階級別

